

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日2009年1月20日

## 1. 概要

実践団体名	高知県立高知東高等学校		
連絡先	〒781-8133 高知県高知市一宮徳谷23-1 電話番号(088)845-5751		
プランタイトル	防災文化を広げよう～学校から地域へ・学校へ～		
プランの対象者	全校生徒・教職員、保育園 児、小学生、他校高校生、 地域住民	対象とする 災害種別	地震

### 【プランの目的・ここがポイント！】

本校のこれまでの取り組みを継続するとともに、防災教育を通じて防災文化を、本校だけでなく、地域や他の高校などに広げていくことを目的としました。高校生自身が創意・工夫をしながら取り組みむとともに、地元小学校、地域、他の高校などとのつながりを構築する点、取り組みの成果を広げる点がプランの大きなポイントです。

### 【プランの概要】

2005年度のチャレンジプランでは、学校現場で取り組める防災教育の事例を作成し、その後、それらを継続・発展的に取り組んできました。今回のチャレンジプランでは、本校の高校生が地域に出ること、高校生どうしがつながることで、防災文化を広げる取り組みを主眼に実施してきました。

- 高校生地震防災ワークショップ（県下の高校生が集い、地震防災をテーマに交流）
- おもしろサイエンス&じしんぼうさい教室（科学部の高校生が小学生に）
- 本県が著作権をもつ「防災キャラクター」の教育現場での活用
- 授業等での教材の作成、および、それらの保育園・小学校や地域で演示・展示等
- 地震防災フィールドワーク（地域から学ぶ・地域で学ぶ）他

### 【期待される効果・ここがおすすめ！】

本校のこれまでの取り組みは、ホームページで公表し、いつでも利用できる状況をつくっており、他校の参考になると思います。また、高校生が校外で活動することは、高校生自身の学びとともに、地域の励みや希望にもつながっています。さらに、高校生どうしの学校間交流は、今後、防災教育を生徒の視点で各校に広げるきっかけづくりとなったとともに、教員レベルでの交流の礎となるものです。これらの取り組みにより、防災文化が他校や地域にさらに広がるのが期待されます。

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2008年 6月	第2回地震防災プロジェクト 委員会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震防災教育プログラム（通学路チェック）</li> <li>・学校安全探検隊</li> </ul>
2008年 7月	第3回地震防災プロジェクト 委員会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員研修会（心肺蘇生法）</li> </ul>
2008年 8月			<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろサイエンス・じしんぼうさい教室</li> <li>・あおい保育園での防災啓発劇</li> </ul>
2008年 9月	第4回地震防災プロジェクト 委員会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震防災フィールドワーク in 安芸</li> </ul>
2008年 10月	第5回地震防災プロジェクト 委員会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震防災教育プログラム（防災講演会）</li> </ul>
2008年 11月			<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震防災教育プログラム（防災体験）</li> <li>・文化祭（防災キャラクター着ぐるみショー、防災グッズの作品展示、炊き出し試食、募金）</li> <li>・防災避難誘導訓練</li> <li>・防災講演会</li> <li>・一宮ふれあい祭りでの防災キャラクター着ぐるみでの啓発活動</li> </ul>
2008年 12月	第6回地震防災プロジェクト 委員会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全キャンペーン（炊飯袋の配布）</li> <li>・高校生地震防災ワークショップ</li> </ul>
2009年 1月			<ul style="list-style-type: none"> <li>・県消防学校への体験入学</li> </ul>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 3. 実践したプランの内容と成果

#### 【実践プログラム①】

タイトル	「防災教育」アンケート
実施月日（曜日）	1学期（5月） 理科総合Bの授業中
実施場所	各教室
担当者または講師	1年次 理科総合B 担当教員
所要時間または「コマ数×単位時間」	10分程度（5クラス）
プログラムのカテゴリ、形式	その他（実態アンケート）
活動目的	その他（生徒の防災学習等の実態を把握する）
達成目標	今後、取り組みをすすめるための参考とするため、新入生に対し「防災教育アンケート」を実施し、中学校までの学習・体験内容、備え、意識について実態を把握する。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	① アンケートの趣旨説明 ② アンケートの実施 ③ アンケートの集計・分析
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	アンケート用紙
参加人数	総合学科1年次生200名
経費の総額・内訳概要	用紙
成果と課題	【成果】はじめて実施することで、小・中学校での学習・体験内容などを把握することができ、今年度の取り組みに活かすことができた。 【課題】特になし
成果物	アンケート用紙、集計結果を学校ホームページに公表

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム②】

タイトル	地震防災プログラム①（通学路チェック、災害伝言ダイヤルの使い方）
実施月日（曜日）	1学期（5月～6月） 理科総合Bの授業中
実施場所	各教室
担当者または講師	1年次 理科総合B 担当教員
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分（5クラス）
プログラムのカテゴリ、形式	教科学習
活動目的	防災に関する知識を深める
達成目標	新入生に対し、通学途中で被災することがあることを理解させ、その時の対応方法について学ぶ。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>理科総合Bの地球表面の運動の単元に関連して、地震防災の教材を取り入れ実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自宅から学校までの通学ルート（交通手段）をまとめる。</li> <li>② 通学途中で、危険な場所・ものを書き出す。</li> <li>③ 通学ルート上にある避難場所（主に、学校などの公共施設）を書き出す。</li> <li>④ 通学ルートと予想されている南海地震が起こった場合の高知市の浸水予測図とを比較させる。</li> <li>⑤ 通学中に予想される南海地震が発生した場合の行動（5つの原則）を確認させる。</li> <li>⑥ 災害用伝言ダイヤルの使い方について確認させる。</li> </ol>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ワークシート
参加人数	総合学科1年次生200名
経費の総額・内訳概要	用紙
成果と課題	<p>【成果】1年次の理科総合Bの内容に関連した教材として実施することで、すべての生徒に、災害をイメージさせ、その対応方法について理解させることができた。また、その後実施する「地震防災プログラム」の動機付けにもつながった。</p> <p>【課題】教科授業の中で行うので、実施担当者がそれぞれ違うため、</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	ワークシートをすすめるための共通理解を深める時間を確保することが必要である。
成果物	「ワークシート」を学校ホームページに公表

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム③】

タイトル	地震防災プログラム② 地震防災講演会
実施月日（曜日）	10月28日（火）
実施場所	高知東高校 体育館
担当者または講師	講師：岡村 眞さん（高知大学理学部教授）
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式	講習会・学習会
活動目的	防災に関する知識を深める
達成目標	近い将来発生が予想されている巨大地震についての基礎知識を含め、その発生に対する切迫感を共有するとともに、地震発生前後に自分たちができることについて考えるきっかけとする。
実践方法・進め方 （箇条書き、またはフロー）	<p>13:15 13:20までに体育館に入場するように指示 ※筆記用具の持参を指示1</p> <p>3:20 整列指導</p> <p>13:30 開会のあいさつ・趣旨説明・講師紹介</p> <p>13:35 講演 質疑応答</p> <p>15:05 閉会のあいさつ（謝辞：生徒）</p> <p>15:15 退場→各ホームに入る 各ホームで感想文を書く→回収</p> 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	スクリーン・プロジェクター、演題垂れ幕、感想文用紙
参加人数	総合学科1年次生200名
経費の総額・内訳概要	講師謝金、用紙
成果と課題	<p>【成果】県内での数多くの防災講演会の講師をつとめ、また、地震の研究者として活躍されている講師を招くことで、地震防災の基礎知識について意欲的に学ぶことができた。</p> <p>【課題】全校生徒対象の地震防災デー（防災避難誘導訓練とセット）の取り組み（今年度は講演会）との関連性を、毎年検討する必要がある。</p>
成果物	実施要項を学校ホームページに公表

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム④】

タイトル	地震防災プログラム③ 地震防災体験学習
実施月日（曜日）	11月4日（火曜日）
実施場所	高知東高校 多目的棟1階、看護科棟1階集会室、北昇降口前広場
担当者または講師	高知市消防局・高知東消防署
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式	講習会・学習会
活動目的	防災に関する知識を深める
達成目標	災害時において、自分の命だけでなく他人の命を守るための行動ができるようになる。
実践方法・進め方 （箇条書き、またはフロー）	<p>体験内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ロープの基本結索</li> <li>②毛布などの身近なものを使ったケガ人の搬送法</li> <li>③ボール等を使った重量物を持ち上げる方法</li> </ol> <p>3班に分け、ローテーションで体験する。 体操服に着替え、最初の場所に集合する。 出席カードを作成し、それぞれの場所で確認印をもらう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	出席カード ロープ、ボール、ジャッキ、毛布、竹棒
参加人数	総合学科1年次生200名
経費の総額・内訳概要	約500円（出席カード作成用の色画用紙）


## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

<b>成果と課題</b>	<p>【成果】 はじめて実施した「防災教育アンケート」の結果を活かしたメニューにすることで、救出・救助方法のみでなく、バール・ジャッキなど実際の道具の名前も学ぶことができた。現場に接している消防士から指導を受けることで、緊張感をもってできた。</p> <p>【課題】 限られた時間の中での取り組みのため、全員が体験できないメニューもあり、さらなる工夫が必要。また、雨天時の変更メニューへの対応が課題となる。</p>
<b>成果物</b>	実施要項を学校ホームページに公表



## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑤】

タイトル	生徒による校内安全点検の取り組み
実施月日（曜日）	「声」集約期間 6月23日（月曜日）～6月30日（月曜日） 「校内安全点検隊」 6月25日（水曜日）
実施場所	高知東高校 校内
担当者または講師	学校安全委員会担当教員および地震防災プロジェクト委員会の教員
所要時間または「コマ数×単位時間」	約1時間
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	その他
達成目標	全校生徒から、学校内の危険な場所や修繕してもらいたい場所などの声を集約するとともに、生徒会学校安全委員が校内を巡回してまとめ、担当職員に要望することにより、生徒の視点での施設の修繕、安全意識の高揚をめざす。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>①「声」集約について</p> <p>ポスターや校内放送などを通して、生徒の「声」を各ホームの学校安全委員が集約するとともに、職員室前の集約箱に文書を入れる。</p> <p>②「校内安全点検隊」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年毎の学校安全委員に教職員が同伴して、分担して校舎内・外の危険な場所や修繕してもらいたい場所をチェックして、集約する。また、県教委が作成した、庇（ひさし）への立入禁止を示すステッカーの貼付も、生徒自身が行う。</li> <li>集約したもの一覧表にまとめ、事務長との話し合いの場で、代表者が報告する。</li> </ul> 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	集約用紙、集約箱、デジタルカメラ（現場写真）
参加人数	全校生徒、学校安全委員 各学年6名×3学年
経費の総額・内訳概要	用紙

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

<b>成果と課題</b>	<p>【成果】生徒の視点で危険箇所を見つけ、学校に報告し、その箇所が修繕されることで、達成感を感じることができた。また、日常的に生徒からの声を集約するきっかけとなった。</p> <p>【課題】危険箇所を見つける方法を、事前に学習しておく必要がある。</p>
<b>成果物</b>	実施要項、集約表などを学校ホームページに公表

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑥】

タイトル	おもしろサイエンス&じしんぼうさい教室
実施月日（曜日）	7月28日（月曜日）8月5日（火曜日）8月20日（水曜日）
実施場所	一宮東小学校放課後児童クラブ、泉野小学校放課後児童クラブ新堀小学校放課後児童クラブ
担当者または講師	科学部生徒（7名）および顧問教員
所要時間または「コマ数×単位時間」	1カ所：2時間～2時間30分
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	遊び・楽しみながら防災
達成目標	<p>「理科（科学）」に関心のある高校生（科学部の生徒）が、自分たちだけが楽しむだけでなく、小学生に教える場を作ることで、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学生の「理科離れ」対策・・・「理科（科学）」は楽しい！</li> <li>○高校生自身の学び <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な実験でもいろいろな工夫をしなくてはならない（研究）</li> <li>・部活動の成果の発表の場</li> <li>・教えることの難しさ <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生とのふれあい・・・先生（大人）ではなく、年齢が近いお兄さん・お姉さんとして</li> </ul> </li> <li>・小学生の反応に達成感</li> </ul> </li> <li>○高校生の社会参加</li> <li>○地域の学校として、地域に開かれた学校をPR</li> </ul>
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 1学期の科学部の活動で、予備実験（メニュー選定・分担）</li> <li>② 各児童クラブとの打ち合わせ</li> <li>③ 理科の実験に加え、地震防災関連のメニューを入れる（★印）</li> </ol>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	地震を体験	頭を守る・あわてて飛び出さない・ガラス
	怖いもの	地震・雷・火事・おやじ
	防災キャラクター	紹介
	今日は楽しく「科学」と「地震防災」について学ぼう	
	紙コップロケット発射	
	雲をつくらう	ペットボトルの中に雲をつくる
	大気圧を体感	大気圧で空き缶つぶし
		大気圧で一斗缶つぶし
		離れないゴム板
		ジャガイモにストローが刺さるか
		こぼれない水・こぼれる水
	共振現象	カップブランコ（5円玉）
		思い通りに振れる振り子
		★思い通りに揺れるビル
	家の耐震化	★紙ぶるる
	液状化現象	★ペットボトルを振ると米の量が減る？ ★砂の中から水
	助けを求める	★ストローで笛づくり
	津波の怖さ	★津波映像
振ると色が変わる液体		
割り箸1本でコップを持ち上げる		
マジックムービングイメージ		
復習		
	 	
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>★思い通りに揺れるビル（木板に長さの違う棒状スポンジを貼る）</li> <li>★紙ぶるる（作成済みの「紙ぶるる」）</li> <li>★ペットボトルを振ると米の量が減る？（ペットボトルに玄米を8分目まで入れ、ペンでその高さを表示）</li> <li>★砂の中から水（上部を切り取ったペットボトルに砂と水を入れ、割り箸で混ぜる）</li> <li>★ストローで笛づくり（ストロー・ハサミ）</li> <li>★津波映像（スマトラ沖地震映像ビデオ）</li> </ul>	
参加人数	小学生（1～3年生）3校で164名	
経費の総額・内訳概要	主に100円ショップで材料を購入 紙ぶるる（通信販売）	

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

<b>成果と課題</b>	<p>【成果】過去3年間は「おもしろサイエンス教室」として実施してきたが、今回、防災の要素を取り入れ「おもしろサイエンス&amp;じしんぼうさい教室」としたことで、より充実した内容となった。単独で「防災」教室を行うよりも、楽しく防災を学ぶことができた。</p> <p>【課題】児童クラブは1～3年生が対象で、これまでのサイエンス教室も、毎年同じメニューとならないように工夫してきた。来年度再来年度は、防災に関するメニューの工夫が必要である。</p>
<b>成果物</b>	ポスターなどを学校ホームページに公表

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑦】

タイトル	保育園での防災劇
実施月日（曜日）	7月22日（火曜日）～7月28日（月曜日）
実施場所	あおい保育園
担当者または講師	選択科目「発達と保育」受講生徒および担当教員
所要時間または「コマ数×単位時間」	15分×5回
プログラムのカテゴリ、形式	教科学習
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	保育園児が高校生から、防災劇を通じて地震発生時の対応方法を学ぶ。
実践方法・進め方 （箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択科目「発達と保育」の一環である保育園実習で実施</li> <li>・遊びの中で、防災への意識付けを行うことができるよう防災キャラクターを活用し、劇を演じる。</li> <li>・事前の準備             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 担当日ごとの役割分担</li> <li>② 防災キャラクターお面の制作</li> <li>③ シナリオの検討</li> <li>④ シナリオを同校の放送部・演劇部に依頼し録音</li> <li>⑤ 劇の練習</li> </ol> </li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災キャラクターのお面</li> <li>・シナリオ</li> <li>・シナリオを録音したCD</li> <li>・音響機器</li> </ul>
参加人数	保育園児64名、生徒31名
経費の総額・内訳概要	画用紙、輪ゴム、CD
成果と課題	<p>【成果】対象となった園児の年齢は3歳～5歳であったが、覚えてもらいたい地震発生時の注意について、ポーズと共に覚えてもらうことができた。防災キャラクターのお面も効果的に活用できた。</p> <p>【課題】防災劇の効果をさらに高めるために、小道具や音楽などの工夫を重ねる必要がある。</p>
成果物	シナリオを学校ホームページに公表




## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑧】

<b>タイトル</b>	地震防災フィールドワーク in 安芸
<b>実施月日（曜日）</b>	9月24日（水曜日）
<b>実施場所</b>	高知県安芸市内
<b>担当者または講師</b>	講師： 安芸市役所まちづくり課 佐藤暢晃さん（課長補佐兼防災安全係長） 安芸市役所まちづくり課 正岡信悟さん（主事 防災安全係） 安芸市柳田地区防災会 浜口 俊介さん 安芸市安芸中央防災会 山内 光一さん
<b>所要時間または 「コマ数×単位時間」</b>	1日日程
<b>プログラムの カテゴリ、形式</b>	校外学習・移動教室
<b>活動目的</b>	防災に関する知識を深める
<b>達成目標</b>	将来の起こるとされる南海地震に対する対策を、自主防災組織率90.2%（津波浸水区域は100%）、童謡の里らしく防災替え歌、防災まんじゅうなどアイデアを懲らした取り組みなど、高知県下で先進的な取り組みをしている安芸市の取り組みから学ぶことで、災害特性を踏まえた防災に関する知識を得るとともに防災意識の向上をはかる。


## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

<p><b>実践方法・進め方</b> (箇条書き、またはフロー)</p>	<p>①地元（安芸市役所まちづくり課）との打ち合わせ ②授業の中で、安芸市についての事前学習を行う ③当日の日程</p> <p>8：50 東高校発 9：40 安芸漁港にて日本一の高さの防波堤見学 10：00 安芸市役所着 事前学習（まちづくり課職員） 10：30 柳田地区防災会 取り組み発表 柳田地区フィールドワーク（市役所から徒歩で現地へ） 安芸駅前→野良時計前（バスで移動） 11：45 昼食（廓中ふるさと館） 野良時計前→寿町 12：30 安芸中央防災会（寿町、本町3丁目、久世町）フィールドワーク 13：30 DIG（災害図上訓練）を体験 15：00 終了 16：00 東高校着</p> 
<p><b>準備、使用したもの</b> ・人材 ・道具、材料等</p>	<p>事前学習資料、ガイド冊子、地図、画板、名札、模造紙、付箋、色ペン</p>
<p><b>参加人数</b></p>	<p>「地震列島と私たち」2年次（9名）3年次生（13名）受講生</p>
<p><b>経費の総額・内訳概要</b></p>	<p>バス借り上げ料、講師謝金 A3版ボード製作（PP厚板シート・クリップ）・・・100円ショップで購入</p>
<p><b>成果と課題</b></p>	<p>【成果】 高校生が実際に地域に出て行くことで、地域の取り組みを学ぶとともに、住民から励まされるだけでなく、住民を励ます存在ともなった。成果物として、壁新聞にまとめた成果物を校内や文化祭で掲示することで、受講生だけの成果とせず、他の多くの生徒に伝えることができた。</p> <p>【課題】 県内で先進的な取り組みをしている地域を選定して実施しているが、継続して実施するためには、移動手段の確保が必要である。</p>
<p><b>成果物</b></p>	<p>事前学習資料、ガイド冊子、壁新聞を学校ホームページに公表</p>



## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑨】

タイトル	文化祭（防災キャラクター着ぐるみショー）
実施月日（曜日）	11月7日（土曜日）・8日（日曜日）
実施場所	高知東高校 体育館および看護科棟1階集会室
担当者または講師	科学部・演劇部の生徒
所要時間または「コマ数×単位時間」	約20分×2回
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	高知県の所有する防災キャラクターの着ぐるみを活用した演劇を通じて、地震防災に関する知識、地震発生時の対応方法を身につける。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> <li>① シナリオ入りCDのみでの練習。</li> <li>② 県庁地震・防災課へ、着ぐるみの貸し出し。（事前予約）</li> <li>③ 着ぐるみを着ての練習</li> <li>④ 本番（着替え場所等の確保）</li> </ol> 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シナリオ入りCD</li> <li>・着ぐるみ6体、タイムマシンのパネル</li> <li>・音響機器・照明機器</li> <li>・懐中電灯、スニーカー</li> </ul>
参加人数	1日目：本校生徒教職員約700名、2日目：小学生等約30名
経費の総額・内訳概要	約2000円（着ぐるみの修理用品）
成果と課題	<p>【成果】1日目は、今回はじめて高校生を対象に実施したが、反応を見る限り、十分耐え得る内容であることが明らかとなった。シナリオ、演技を含めた完成度の高さが、観客を引きつける魅力を持つものと思われる。</p> <p>【課題】着ぐるみ6体の移動は、その大きさから乗用車2台分となり、他団体のとの調整もあり、早期からの計画が必要である。また、校内での保管場所の確保も必要である。</p>
成果物	なし

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑩】

タイトル	文化祭（防災グッズの作品展示、炊き出し試食）
実施月日（曜日）	11月7日（土曜日）・8日（日曜日）
実施場所	高知東高校
担当者または講師	家庭クラブの生徒および家庭クラブ顧問教員
所要時間または「コマ数×単位時間」	展示：2日間　炊き出し：4時間
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	防災に役立つ資料・教材づくり
達成目標	家庭科での教科学習の成果物の展示や炊き出し体験により、防災意識を啓発する。
実践方法・進め方 （箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科に関する種々の選択科目において防災グッズを制作</li> <li>・文化祭における学校家庭クラブの活動として、炊き出しの実践</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で制作した防災グッズ</li> <li>・炊き出し用食材</li> <li>・炊き出し用ガス、コンロ、鍋等</li> </ul>
参加人数	10名
経費の総額・内訳概要	約2000円（内訳：炊飯袋、輪ゴム、包装袋、用紙など）
成果と課題	<p>【成果】文化祭という大きな行事の中で展示をしたことで、教科における防災啓発活動の取り組みを知ってもらうことができた。</p> <p>【課題】炊き出し体験においては、文化祭での他の食品販売ブースとの違いを明確にする工夫が必要である。</p>
成果物	なし

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑪】

タイトル	防災避難誘導訓練
実施月日（曜日）	11月13日（木曜日）
実施場所	高知東高校
担当者または講師	担当者（部署）：地震防災プロジェクト委員会
所要時間または「コマ数×単位時間」	約30分
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	災害を想定した訓練
達成目標	<p>重点目標と確認すべき行動</p> <p>①生徒・教職員とも、地震発生時およびその後の行動を確認する。</p> <p>②避難場所集合時の点呼を確実に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難場所（体育館）での点呼状況と照合して、参集状況を確認する。</li> <li>・不明生徒を設定し、緊張感のある訓練とする。</li> <li>・教職員の参集状況についても確認する。</li> </ul>
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>当日の時間設定</p> <p>5限目の授業中に発災を想定</p> <p>13：25～ 5限目のチャイム、出席をとる。</p> <p>13：32頃 授業中に震度6強の地震が発生</p> <p style="padding-left: 40px;">校内放送で地震発生を知らせ、鳴動音（CD）を100秒間流す。（100秒間の長さを体験する）</p> <p>13：35 放送（鳴動音）終了以降の、授業担当者の行動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒への指示、生徒の安全確保</li> <li>・震度6強の揺れについて説明する。</li> <li>・地震動中に「机の下に潜る」「机の脚をつかむ」「周囲をよく見る」ができたかを振り返る。</li> <li>・生徒とともに、図面をみながら消火器、避難器具などの位置を確認する。</li> <li>・避難時の注意事項を周知する。</li> </ul> <p>13：35 放送（鳴動音）終了以降の、授業担当者以外の教職員の行動</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎の被害状況・各教室（場所）の状況を把握しながら、職員室（対策本部）に参集し、教頭に報告する。</li> </ul> <p>13:35 放送（鳴動音）終了後、救護所係は、多目的棟1階に救護所を開設する。</p> <p>収集した情報をもとに、避難計画を策定</p> <p>13:47 停電で校内放送が遮断したことを想定して、避難経路・避難場所を情報伝達係の教員が各階の各教室に周知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難誘導の要所に避難誘導係を配置</li> <li>・避難本部開設係は（決定された避難場所に）、避難本部の開設準備に向かい、避難本部の準備を行う。</li> </ul> <p>13:47 非常ベルを鳴らす（1分間・事務室）</p> <p>連絡があり次第、避難開始</p> <p>避難場所に集合・整列・点呼</p> <p>講評（学校長）</p> <p>引き続き、防災講演会を実施</p>
<b>準備、使用したもの</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材</li> <li>・道具、材料等</li> </ul>	消火器・避難器具等を記載した校内図、校舎配置図、校内教室配置図（模造紙大）、マジック、地震効果音テープ、生徒名簿（模造紙版・学年毎に作成）、けが人表示ネームプレート、アンケート用紙
<b>参加人数</b>	全校生徒・教職員（750名）
<b>経費の総額・内訳概要</b>	けが人表示ネームプレート
<b>成果と課題</b>	<p><b>【成果】</b></p> <p>現実に近い方法で実施することにより、教職員の被災時のイメージづくりとともに、備えておくべき事項、訓練の改善点が明らかになった。特に行方不明生徒を設定したことで、より緊張した訓練となった。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>教職員・生徒全員への基本原則の理解が欠かせない。そのための時間確保も必要である。また、生徒が主体的に動く訓練の工夫を検討する。</p>
<b>成果物</b>	実施要項、消火器等配置図、アンケートを本校ホームページ上で公表

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑫】

タイトル	(防災避難誘導訓練後の) 地震防災講演会
実施月日 (曜日)	11月13日 (木曜日)
実施場所	高知東高校体育館
担当者または講師	講師：西田政雄さん (NPO法人我が家を見直す会事務局長、防災寺子屋主宰)
所要時間または「コマ数×単位時間」	70分
プログラムのカテゴリ、形式	講演会・シンポジウム
活動目的	防災に関する知識を深める
達成目標	近い将来発生が予想されている巨大地震についての基礎知識を含め、その発生に対する切迫感を共有するとともに、地震発生前後に自分たちができることについて考えるきっかけとする。
実践方法・進め方 (箇条書き、またはフロー)	<p>当日のプログラム</p> <p>防災避難誘導訓練に引き続き・・・</p> <p>14:10 趣旨説明・講師紹介 講演※途中休憩なし 質疑応答</p> <p>15:10 閉会のあいさつ (謝辞：生徒会長)</p> <p>15:15 退場</p>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>講演：長机・延長コード・マイク・プロジェクター・スクリーン、演題垂れ幕</p> <p>ガラス破壊実験：ブルーシート、窓枠 (ガラス・飛散防止フィルムを貼ったガラス)、台座、手袋、掃除用具</p>
参加人数	全校生徒・教職員 (750名)
経費の総額・内訳概要	<p>講師謝金</p> <p>ガラス破壊実験費 (材料費を含め10000円)</p>



**2008年度防災教育チャレンジプラン  
最終報告書**

<b>成果と課題</b>	<p>【成果】家庭における地震対策について、実践的な対策が示されることで、防災のイメージづくりにつながった。特に、飛散防止フィルムを貼っていないガラスと貼っているガラスを、実際の地震に近いねじれの力（歪み）で破壊する実験は、迫力もあり、効果的であった。</p> <p>【課題】毎年実施していく上で、講演内容・講師選定が課題。</p>
<b>成果物</b>	実施要項を本校ホームページ上で公表

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑬】

タイトル	一宮ふれあいまつり 防災キャラクター着ぐるみによる啓発活動
実施月日（曜日）	11月29日（土曜日）
実施場所	土佐神社
担当者または講師	2年生 生徒有志
所要時間または「コマ数×単位時間」	約2時間
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	遊び・楽しみながら防災
達成目標	地域の交流イベントの中で、防災キャラクターの着ぐるみを活用することで、地震防災についての啓発を行う。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>① 県庁地震・防災課へ、着ぐるみの貸し出し。（事前予約）</p> <p>② 啓発用パンフレット（高知県作成）の準備</p> <p>③ 当日、入れ替わりながら、会場を回る。</p>
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	<p>防災キャラクター着ぐるみ（じしんまん、たいさくくん、ゆうどうくん）</p> <p>子ども用 防災パンフレット（高知県作成）</p>
参加人数	生徒5名、教員2名 ※地域住民多数
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】着ぐるみは子どもたちには大好評で、その保護者も含め、防災の啓発につながった。</p> <p>【課題】当初は、防災キャラクター着ぐるみショーを計画していたが、都合で着ぐるみ6体の貸し出しができず、啓発活動のみになってしまった。</p>
成果物	なし



## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書


### 【実践プログラム⑭】

<b>タイトル</b>	高知県 高校生地震防災ワークショップ
<b>実施月日（曜日）</b>	12月20日（土曜日）
<b>実施場所</b>	高知東高校
<b>担当者または講師</b>	講師： 岡村 眞さん（高知大学理学部教授） 藤田俊輔さん・吉田宏樹さん・山田幸彦さん・堀場晃平さん・古野北斗さん・佐藤智也さん（高知大学学生） 高知市東消防署 署員のみなさん 土居清彦さん・依岡陽子さん・中谷幸治さん（日本赤十字社高知県支部 参与および奉仕団員）
<b>所要時間または「コマ数×単位時間」</b>	8時間（10：00～16：00）
<b>プログラムのカテゴリ、形式</b>	イベント・行事
<b>活動目的</b>	防災に関する知識を深める
<b>達成目標</b>	高知県下の高校生が集まり、共通の課題である南海地震について学び、ワークショップ形式でその備えと対策、とるべき行動について話し合い、交流を深める。
<b>実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）</b>	<p>準備</p> <p>8月：高知県下の公・私立高校に第1次案内送付</p> <p>11月中旬：高知県下の公・私立高校に正式案内、参加申込書を送付、協賛品提供のお願い文書送付</p> <p>12月上旬：後援団体と打合せ</p> <p>当日のプログラム</p> <p>9：30 受付</p> <p>10：00 開会式</p> <p>10：10 「南海地震」を知ろう</p> <p style="padding-left: 20px;">①「防災ウルトラクイズ」</p> <p style="padding-left: 20px;">②その時学校はどうなる</p> <p>11：00 救出・救助の方法を学ぼう</p> <p>12：00 炊き出し体験（昼食）</p> <p>13：00 グループ討論</p>







## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p style="text-align: center;">①全体会 ②分科会</p> <p>15:30 グループ討論まとめの集会 15:50 閉会式</p> 
<p><b>準備、使用したもの</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材</li> <li>・道具、材料等</li> </ul>	<p>受付：当日用パンフレット、名札、参加予定者名簿</p> <p>防災ウルトラクイズ：クイズ問題、問題・解説スライド、景品</p> <p>救出・救助体験：ハンドボールゴール、ジャッキ、バール、当木、 訓練用ロープ、角材、のこぎり、針金（ハンガー）、 ボルトカッター</p> <p>炊き出し体験：食材、調理機器、簡易炊飯袋（お袋のワザ）、食器 （紙）、割り箸等</p> <p>グループ討論：模造紙、色ペン、付箋紙（大）、トイレづくり用段ボ ール、カッター、ガムテープ、ビニール袋、20 Lポリタンク、保存食サンプル、保存水サンプル、 ホワイトボード</p> <p>アンケート用紙</p>
<p><b>参加人数</b></p>	<p>生徒66名（東高校23名、他校43名）、教職員35名（東高校24名、他校11名）、地域住民2名 合計103名</p>
<p><b>経費の総額・内訳概要</b></p>	<p>約5万円（講師謝金・用紙・文具・障害保険・郵送料・食材：米1人1合を参加者が持参 他）</p>
<p><b>成果と課題</b></p>	<p>【成果】高知県下ではじめて、「地震防災」に関して県下の高校生が集まり、交流する機会となった。また、対策が進んでいない学校現場に対し、生徒の視点で提言することができた。</p> <p>【課題】今後、このような取り組みを継続していくための組織、財源などの検討。</p>
<p><b>成果物</b></p>	<p>まとめの冊子</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑮】

タイトル	交通安全キャンペーンでの炊飯袋等の配布
実施月日（曜日）	12月22日（月曜日）
実施場所	学校周辺の国道沿い
担当者または講師	生徒学校安全委員、家庭クラブ部員、家庭クラブ顧問
所要時間または「コマ数×単位時間」	配布時間 1時間
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	その他（防災啓発）
達成目標	交通安全キャンペーンを利用して、防災啓発を行う。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・炊飯袋を利用した炊飯の実験</li> <li>・「交通安全キャンペーン」活動として配布していたグッズの中に、炊飯袋とその使用方法および実験結果をまとめたレポートを同封し配布する。</li> </ul> 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全キャンペーン用ちらし</li> <li>・炊飯袋</li> <li>・炊飯袋の利用方法および実験結果のレポート</li> </ul> 
参加人数	30名
経費の総額・内訳概要	約2000円（内訳：炊飯袋、輪ゴム、包装用ビニール袋、用紙）
成果と課題	<p>【成果】地域の方々と共に取り組んでいる「交通安全キャンペーン」活動に、学校での取り組みや、被災時に利用できる炊飯袋の紹介を組み入れることができた。</p> <p>【課題】 継続した活動が必要である。</p>
成果物	キャンペーン時に配布した文書を本校ホームページ上で公表

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑬】

タイトル	高知県消防学校 体験入学
実施月日（曜日）	1月14日（水曜日）
実施場所	高知県消防学校
担当者または講師	講師：県消防学校 教官
所要時間または「コマ数×単位時間」	約6時間（9：30～15：30）
プログラムのカテゴリ、形式	校外学習・移動教室
活動目的	災害を想定した訓練
達成目標	消防学校での訓練を通じて、防災に関する理解と知識を深めるとともに、災害時の基礎活動を身に付ける。
実践方法・進め方 （箇条書き、またはフロー）	<p>8：50 学校発→9：30 消防学校着 開校式・体験→体験終了・修了式 15：20 消防学校発→16：00 学校着</p> <p>①開校式</p> <p>②講義 消防の仕事について等</p> <p>③体験</p> <p style="padding-left: 20px;">規律（礼法）指導</p> <p style="padding-left: 20px;">消火訓練（消火器・消防車からの放水）</p> <p style="padding-left: 20px;">ロープ結索訓練</p> <p style="padding-left: 20px;">煙中避難訓練</p> <p style="padding-left: 20px;">スプリンクラー実演</p> <p style="padding-left: 20px;">救出救助訓練 他</p> <p>④閉校式</p>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	名札（白ガムテープに油性ペンで名前を書き、服に貼付）、軍手、アンケート用紙
参加人数	生徒会学校安全委員、地震列島と私たち2・3年次生受講生 ※消防関係の仕事を強く希望している者 合計33名
経費の総額・内訳概要	バス借り上げ料



## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

<b>成果と課題</b>	<p>【成果】学校では体験できない施設・設備を使っての体験ができた。また、現場の消防士（教官）から指導を受けることで、災害に真剣に向き合うこと、助け合うことの大切さを学ぶことができた。</p> <p>【課題】消防学校の立地場所から、今後も継続するためには、バス借り上げ料の確保が必要。</p>
<b>成果物</b>	実施要項、実施後のアンケートを本校ホームページ上で公表

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校現場は、職員会や各種打ち合わせ会など様々な会議が放課後に設定されており、同時に部活動や補習などもある。そのため、校内で防災教育をすすめる組織である「地震防災プロジェクト委員会」の設定に苦勞しました。</li> <li>●これまで実施している既存の取り組みに「防災」の要素を加えることで、単独で実施するよりも効果的に実施できました。(例)「おもしろサイエンス教室」に「じじんぼうさい教室」を加える、「交通安全キャンペーン」に、災害時に利用できる炊飯袋を説明書を入れて配布するなど。</li> <li>●継続して実施している取り組みは、前年度の反省点も活かしながら、生徒の実態に合わせて立案するよう工夫しました。</li> </ul>
<p><b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高知県が所有する防災キャラクターは、それぞれのキャラクターが1体ずつしかなく、他団体との日程調整に左右され、11月29日「一宮ふれあいまつり」では、キャラクターショーが実施できませんでした。</li> <li>●はじめて実施した「高知県 高校生地震防災ワークショップ」では、後援団体、協賛団体等の選定・依頼などの点、どれくらいの高校が参加してくれるかなどの不安がありましたが、結果的に、どの団体・高校も提起を積極的に受け止めてくれました。</li> <li>●取り組みの多くは、学校現場だけで行う力量はないので、積極的に専門家や専門団体に依頼するようにしました。</li> <li>●各実践プログラムへの協力・連携団体との、十分な打ち合わせ時間の確保に苦勞しました。</li> </ul>
<p><b>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多くの実践が2学期に集中しているため(例年も同じですが)、他の学校行事との調整、参加者(生徒・教職員)に、一つ一つ実践プログラムの目的を理解して取り組んでもらうことを重視して取り組みました。</li> <li>●必要な物品は、100円均一ショップで購入するなど、できるだけお金をかけない取り組みとしました。(例)フィールドワークに必要なクリップボード(A3版)は、PP厚板シートにクリップを使うなど。</li> <li>●各実践プログラムの導入部分では、できるだけ災害をイメージさせ、動機付けを行う工夫を行いました。(例)講演会、事前学習、地震鳴動音、防災ウルトラクイズなど</li> <li>●実践プログラム実施後は、可能な限り、アンケートや感想文などを集約することで、次年度の資料としています。</li> </ul>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
<b>学校・教育関係・ 同窓会組織</b>	高知県教育委員会 高知大学南海地震防災支援センター 一宮東小学校放課後児童クラブ 泉野小学校放課後児童クラブ 新堀小学校放課後児童クラブ あおい保育園	経費、資料提供 講師、行事後援 じしんぼうさい教室 じしんぼうさい教室 じしんぼうさい教室 保育体験実習での防災劇
<b>保護者・ PTAの組織</b>	高知東高校PTA	会報への取り組み掲載
<b>地域組織</b>	一宮ふれあいまつり実行委員会 安芸市柳田地区防災会 安芸市安芸中央防災会	防災啓発活動 フィールドワーク講師 フィールドワーク講師
<b>国・地方公共団体・ 公共施設</b>	高知県地震・防災課 高知県消防学校 高知市消防局・高知市東消防署 安芸市まちづくり課	講師、資料提供 体験入学 防災体験、行事協力 フィールドワーク講師
<b>企業・ 産業関連の組合等</b>	大塚製薬(株)、(株)総合サービス (株)セイエントプライズ、(株)ブルボン、 四国コカ・コーラボトリング(株)、 ダイドードリンコ(株)、北陸製菓(株) ホームセンター マルニ、ホリカフーズ (株)、ヤマザキ・ナビスコ(株)	行事協賛品提供
<b>ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等</b>	日本赤十字社高知県支部 NPO法人 我が家を見直す会	講師、行事後援 講師、実験
<b>職業、職能団体・ 学術組織、学会等</b>		

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<p>2005年度の防災教育チャレンジプラン以降、継続・発展した取り組みをすすめています。学校現場ですので毎年生徒が変わるので、一つひとつの取り組みが（生徒にとっても）毎回チャレンジなのですが、学校内の活動から、その活動を活かした学校外での活動が増えました。また、「高校生地震防災ワークショップ」の取り組みに見られるように、本校の呼びかけに多くの高校が応えてくれ、学校間が連携した防災教育をすすめるきっかけづくりができました。さらに、このような取り組みや、高校生が地域に出て行くことは、高校生自身の学びの場になっていますが、地域を励ましている側面もあります。防災教育チャレンジプランを通じて、信頼される、期待される学校づくりにもつながりました。</p>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<p>本校の防災教育をすすめる組織は「地震防災プロジェクト委員会」で、この組織は前回の防災教育チャレンジプランをきっかけに設置されました。その後も引き続き役割を担ってきましたが、防災教育の継続性を重視し、来年度からは校務分掌を再編した「環境安全部」を中心に行うこととなります。今回のチャレンジプランは、これまでの取り組みを整理する機会となり、また、防災教育を全県的にすすめる上での本校の役割を明らかにしました。喫緊の課題といえる南海地震に対する取り組みを、さらに継続していくことが、大きな課題です。</p>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<p>これまでの定着した取り組みを継続することで、生徒たちに知識や技能を身につけさせ、行動できる人材を育成します。また、今後も校内だけの取り組みのどまらず、それらを活かして、地域や小学校との連携、高校生どうしの横のつながりを大切にした取り組みを続けていく予定です。そのことで、日常生活の中で「防災」があたりまえになり、「防災文化」として定着することを目標に取り組みたいと思います。</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 7. 自由記述欄 ①

#### ◆実践プログラム以外の取り組み（その他の「防災文化を広げる」活動）

① 高知シティFM「ラジオでつなぐ防災フォーラム」

生徒3名・教員1名出演 6月19日放送（インターネットラジオでも聴けます）



② 高知県教育委員会 防災教育研修会（県内3会場 8月1・7・12日）で実践発表（教員）

・テーマ：「防災文化を広げよう～高知東高校の取り組み～」  
・参加者：幼・小・中・高校教員 3会場合計182名

④ 高知県主催「こども条例記念日フォーラム おびやまちdeトークング」（8月16日）で、「防災」をテーマにした分科会に生徒（2名）が参加し、大人たちと政策提言をまとめる。



⑤ 一宮コミュニティ計画推進会議で、本校に設置している「交通安全・防犯・防災マップ」をベースに、「地域安全マップ」作成についての講演（教員）（10月16日）

⑥ 全国高等学校長協会家庭部会第100回研究協議会（秋季）（10月23・24日）、第52回高知県小・中・高・大家庭科教育連合会研究大会（12月6日）で、家庭科教育に関連した防災教育の取り組みを発表（教員）

⑦ 第10回市民がつくる防災フォーラム 防災標語五七五に応募（18名・29作品）

上位2賞を本校が独占（12月14日）※応募318作品

金賞（1点）「防災は そなえふれあい ささえあい」高知東高校教頭 池村 明子

銀賞（1点）「防災は ひとつひとつの 積み重ね」高知東高校2年 大野 愛由子

⑧ 「交通安全・防犯・防災マップ」を1年生が使う北昇降口に設置（6月）



⑨ テレビ・新聞で報道された取り組み

取り組みが報道されることは、多くの人たちに本校の取り組みを知ってもらい、高校生の頑張りが防災意識を高める機会となるとともに、励みにもなっています。

実践プログラム④「生徒による校内安全点検の取り組み」NHK・RKC

実践プログラム⑤「おもしろサイエンス&じしんぼうさい教室」

NHK・RKC・KUTV・KSS・高知新聞、讀賣新聞

実践プログラム⑦「地震防災フィールドワーク in 安芸」NHK・高知新聞

実践プログラム⑩「防災避難誘導訓練」NHK

実践プログラム⑪「(防災避難誘導訓練後の)地震防災講演会」NHK



# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 7. 自由記述欄 ②

実践プログラム⑬「高知県 高校生地震防災ワークショップ」高知新聞・讀賣新聞

実践プログラム⑭「交通安全キャンペーンでの炊飯袋等の配布」高知新聞

実践プログラム⑫「高知県消防学校体験入学」RKC・KUTV・讀賣新聞

※NHK（日本放送協会）・RKC（高知放送）・KUTV（テレビ高知）・KSS（高知さんさんテレビ）

2008年8月6日  
高知新聞朝刊



### 実験通じ防災学ぶ

泉野小 東高生が出勤教室

高知市

科学を通じ、地震対策をおと、高知東高校の策を楽しく学んでもらう。科学部員らが五日、高知市泉野小で「おもしろサイエンス&じしんぼうさい教室」を開いた。三年前から夏休みを利用して、同市内の放課後児童クラブを回っており、今年は泉野小など三校を巡回。今年から科学の実験に加え、防災意識を高める内容も盛り込んだ。

部員六人は児童ら約八十人を前に、砂と水を入れたペットボトルを使って液状化現象を再現。机に打ち付ける振動を地震の揺れに見立て、徐々に砂と水がペットボトルなどを使った実験に真剣な表情を見せる子どもたち（高知市の泉野小学校）

知市東泉寺の泉野小学校で「おもしろサイエンス&じしんぼうさい教室」を開いた。三年前から夏休みを利用して、同市内の放課後児童クラブを回っており、今年は泉野小など三校を巡回。今年から科学の実験に加え、防災意識を高める内容も盛り込んだ。

が分離していく様子を造形論は「地震の知識は国民的教養。南海地震に備え、面白い実験で理科好きになってもいい。地震や津波の対応がベコッと大きな音を立ててくむたびに、子どもたちは「えー」「やばい！」「やばい！」と驚きの声を上げていた。科学部顧問の谷内康

### 南海地震きょう62年

2008年(平成20年) | 2月21日(日曜日)

## 救助法学び食料確保討論

### 高知東高 演習に9校から70人

がれきからの救出用に、ジャッキアップを体験する生徒ら（高知市の高知東高で）

## 行動する高校生頼もしい

県内の高校生が南海地震の防災について学ぶ演習が20日、高知市一宮裏の県立高知東高で行われた。9校の生徒約70人が参加し、災害時の救助の方法を学び、実践を体験した。演習では、水や食料の確保を学ぶなどの演習を出発した。高知東高では、生徒同士の間で防災について話し、学校の防災活動に生かして欲しいと期待している。

救助する際のロープの結び方を学ぶ。6、7人が死に別々を学んだ。また、地震中に避難が危ない揺れが来る時は、生じ、津波で海水が溢るが揺れたら想定で討論を行った。水は、飲料や手洗いなどのほか、熱中症の治療にも必要と指摘し、川の水、雨水、自動販売機の飲料水などを、トイレや飲料用に使い分けるとを提案。鳥撃では、全面に行き止まないようにルルが必要、トイレでは、後の手洗いは必ずするかなど、高知東高3年の森崎裕人は「学校によって入るが、南海地震の教訓を、高知東高の演習で学んだことを初めて知った。土佐警備隊の演習で学んだことを、高知東高でも学んだ」と話していた。

### 少年野球大会に出場

## 四万十市選抜

### 市長が激励

26日か高知市のスライムスタジアムで開かれた少年野球大会。第1回四万十市選抜チームとして出場する四万十市選抜チーム（四万十市選抜）

### 中芸学が将来決めた

#### 田野 地域学習の成果発表

は防災を、生徒が決めたいマに取組んでいる。発表会では、1年は地域の伝統大会、2年は地域の文化祭、3年は地域のボランティアやボランティア活動を取り上げたほか、3年生は高知市町村の防災活動の取り組みをまとめるとした。

田野は「中芸学が将来決めた」と話していた。

2008年12月21日  
讀賣新聞高知版

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 7. 自由記述欄 ③

**実践を終えて**（防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等）

本校は、「命」にかかわる「防災」は喫緊の課題であることを共通認識し、2005年度に「南海地震に備えて～より行動できる人になろう～」をテーマに、防災教育チャレンジプランに取り組み、その後の取り組みの基礎をつくりました。その柱は、○科学的な知識○想像力（具体的にイメージできることが、防災・減災の方法を考える力になる。）○対応能力（状況を把握し、分析・判断・行動する力）○コミュニケーション能力（人どおしの思いやり・助け合い）の4点を身につけさせることです。高知県においては2008年4月に「高知県南海地震による災害に強い地域社会づくり条例」が施行されるなど、一定、教職員の南海地震に対する危機意識は高まりつつありますが、様々な教育課題が山積する中で、その時間の確保が課題となっています。

この間、小・中学校でも防災教育の取り組みがすすみつつありますが、今回初めて実施した入学生を対象にしたアンケート結果から、防災に関する知識や技能を高校の段階でも身につけさせることの必要性が浮き彫りになりました。「地震防災プログラム」など、すべての生徒に課すべき取り組みを継続することで、防災力を蓄えていくことが第1の目標です。

また、本校では2005年度から総合学科の特色をいかし、2・3年次生の選択科目に「地震列島と私たち」という地震防災を学ぶ科目を開設しました。また、家庭科に関連する科目の中でも、「防災」の教材を取り入れています。それらの科目を選択した生徒にとどまらず、意識や意欲のある生徒たちに働きかけ、高校生自身が地域や小学校に出て行くことで、社会に「防災」を広げることが第2の目標として、この間、取り組んできました。そのため、今回のテーマを「防災文化を広げよう～学校から地域へ・学校へ～」としました。

前回のチャレンジプランとの大きな違いは、学校外とのつながりが増えたことです。単に校内の取り組みに協力してもらうのではなく、高校生自身が「働きかける」しくみを構築しつつあります。これまでの取り組みを発展させたものを含め、実践プログラム⑥⑦⑨⑩⑬⑭⑮は、新たな取り組みです。

取り組みを通して留意した点は、◎一つひとつの取り組みを成功させる努力（毎年の繰り返しでもマンネリ化させない）◎実施後の評価（アンケート、感想文などにより次回の改善につなげる）◎個々の取り組みをつなげる工夫◎取り組みをオープンにするの4点です。さらに、取り組みをすすめる上では、人と人とのつながりが重要です。特に、実践プログラム⑭「高知県 高校生地震防災ワークショップ」は、本校主催で不安要素が多々ある中での初めての開催でしたが、本校を含め9校66名の高校生、後援2団体、協賛10団体、そして何より本校の教職員24名がスタッフとして参加したことは、そのことを表す事例といえます。

これまでの取り組みにご理解・ご協力いただいた方々、および、今回2度目の「防災教育チャレンジプラン」の機会を与えていただいた実行委員会に感謝いたします。引き続き、学校として、これまでの取り組みを地道に継続、発展する努力を重ねることで、来るべき大地震に対する防災力・減災力を高める役割を果たしていきたいと思っております。